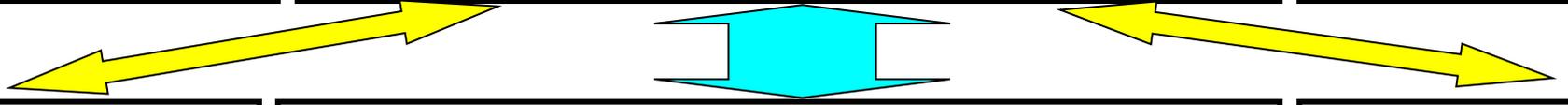


平成30年度 学力向上アクションプラン

A票

尼崎市立 武庫中 学校

学力調査結果等から見た学力向上についての課題 ○全国学力調査の結果に見られる課題 (1)各教科の状況 ・国語、数学とも全国平均に比べて、中間層～下位層にあたる生徒数が若干多い。 ・国語 言語事項などの基礎的な部分や活用する力が全国平均に比べやや劣っている。 ・数学 知識・技能等を様々な場面で活用する力がやや劣っている。 (2) 質問紙調査 ・予習をしている生徒は約20%、復習については40%、学校が休みの日に1時間以上の勉強をする生徒は55%と少なく、家庭学習の習慣が見られない。 ○保護者アンケートから見られる課題 ・学校からの家庭学習の呼びかけが低いとされ、学校からの働きかけを期待している。	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標 ○全国学力学習状況調査 (1)学力調査・平均正答率を全国平均以上。 (2)質問紙調査・予習・復習をする生徒を50%以上。 (3)休みの日に1時間以上の家庭学習をする生徒を60%以上。 (4)平日、1時間以上の家庭学習をする生徒を70%以上。
	授業力向上への取組 ○基礎・基本の徹底を図るとともに主体的で深い学びを行う授業づくり。【(1)アクティブ・ラーニング講師招聘を活用】 ○アクティブ・ラーニング研究推進モデル校へ視察に行き、協働学習による授業改善を学び校内に還元する。【(2)先進校視察支援を活用】	学習習慣定着に向けた取組 ○第1学年理科で授業補助支援員を配属し、同室複数指導を実施する。生徒の苦手なところを個別に指導補助し、理解が進むようにする。 ○第1学年数学、英語で同室複数指導により、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ○グループ学習を実施し、生徒同士が教え合い、主体的に学習できるようにする。その授業記録を取り、今後の指導に活かす。【(5)学力定着支援を活用】 ○各学力層に応じた学習支援の実施(補充、発展的な学習を放課後や休日に実施)【(4)放課後等学習支援を活用】	その他の取組 ○キャリア教育の推進 ・生徒一人一人が、生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送る基盤を形成するために、夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、それに向かっていく力(いわゆるキャリアプランニング能力)をはじめ、自立した社会人・職業人として将来に必要な能力の育成を目指す。	



校種間連携 ○中1ギャップの解消 ・小中連携を維持し尼崎市立武庫小学校6年生対象の「プレ中学生体験」を継続する。本校教員による小学生対象の授業を実施する。 ・本校へ進学予定の3小学校6年生を対象に部活動体験を実施し、中学校への期待感を持たせる。 ○教職員の連携 ・本校で行う研修会への小学校教職員参加を要請する。 ・入学前テストの検証を踏まえた小中における授業の改善の研修を行う。	活用する支援内容		家庭・地域との連携 ○年間学習予定表を作成し、各家庭に配布する。自分の子どもが今、学校で何を学習しているかを知らせ、保護者の学習への関心を高める。 ○連休や長期休業については、宿題を事前に知らせ、保護者の宿題への関心を高める。 ○各教科の評価規準および評価基準、また何を評価対象としているのかを保護者に公表する。 ○学力調査の結果を公表する。
	支援内容 (1)アクティブ・ラーニング推進支援 (2)先進校視察支援 (3)授業補助支援 (4)放課後等学習支援 (5)学力定着支援 (6)その他	具体的内容 ○鳴門教育大学 幾田伸司教授を2回招聘し研究授業および研修会を実施する。 ○神戸大学大学院 川地亜弥子准教授を2回招聘し、研究授業および研修会を実施する。 ○まなボードを発表等に活用し、対話的、協働的な学習を行う。 ○グループ学習の記録を作成し、学習効果の検証を行う。 ○能登町立中能登中学校へ視察(協働学習による授業改善) ○第1学年の協働的な学習において嘱託員による同室複数指導を効果的に行う ○全学年を対象に、定期考査1週間前の放課後学習を実施 2h×15回 ○全学年を対象に、土曜チャレンジスクールを実施 2h×25回 ○夏季休業中、全学年を対象に、英語と数学の補充学習を実施 2h×5回 ○「学習の手引き」を作成し、各家庭に配布し、学習習慣を身に付けさせる。 ○宿題、家庭学習用のプリントを作成し、配布する。 ○eラーニングを活用し、基礎の定着を図る。 ○研究大会や市教委による学力上位県への視察の積極的参加。 ○キャリアノートや資料等の積極的な活用。 ○キャリア形成に係る体験活動及び事前・事後指導の充実。	